

かゝるの周禮より出づる迹人ハ中士四人下士八人史二人徒四

十人 迹之言跡知禽獸之處 といふは似たりとされしめくともありありの事

ゆゑ凡狩ハ鷹飼部犬飼部射部跡見部守部野守

部とこれ部々あるべしと云ひくゆき此遠目もこれ

類ひれもの也

松うねや梅ははあつて佐保殿のより教へえくゆかり人

古語に佐保殿をまのやれと名づけし又あつてむくもの

ともあり得物多くて松うねや梅うねは附つて歸るハ

幾よりとねとほものありむとよとをりする歌の心也

本柴の聖一孔巻終